

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式・記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**)

大問数は昨年度と同じ5題であり、全体の総解答数は昨年度の33問に対し今年度は36問とあまり変わらなかったが、昨年度出題されなかった史料問題や、表を読み取る問題が出題されたためやや増加とした。総解答数中の記述式解答の数は、一昨年度は17問、昨年度は11問、今年度は16問と推移している。正誤判定問題の数は、一昨年度は15問、昨年度は17問、今年度は11問で、昨年度よりも減少した。語句を記述させる問題は、用語そのものは平易であったものの史料文中のものを答えさせるため、難易度は高かった。全体の難易度は、昨年度出題されなかった史料問題や、表を読み取る問題が出題されたことから、難化とした。

出題の特徴や昨年との変更点

本学部は小問数の少ない大問を数多く並べる形式が定番であったが、昨年度は大問が5題に減少し、今年度も大問は5題であった。また総解答数も昨年度の33問に対し今年度は36問とあまり変わらなかった。また、一昨年度の新傾向として、正誤判定問題で解答を二つ選ぶ形式の問題が2問出題されたが、昨年度は3問に増加し、今年度は2問とほぼ変わらなかった。一昨年度まで4年連続で出題されていた史料問題は昨年度は出題されなかったが、今年度は大問2題分出題された。大問Vで出題された、本学部の定番となる図版を用いた文化史問題では、ヨーロッパの美術作品に関連する事項が出題され、絵画の特色について問う正誤問題が出題された。ただし、例年複数枚登場する図版が今年度は1枚のみであった。大問Iでも一昨年度、昨年度と同様に図版を用いた問題が出題され、最初と最後の大問で図版を用いた問題を出題するのは、今後本学部の傾向となるのか注目したい。

その他トピックス

大問II設問7の「コロンブス交換」を記述させる問題は細かいが、新課程の教科書の多くに記載があることから、新課程を意識したと思われる。

大問IIIの設問9では史料および表から得られる情報と矛盾しない記述を選ばせるという、2018年と類似する問題がみられた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式	アジアの仏教 建造物	資料 i はビルマのパガンの仏教寺院群、ii は敦煌の莫高窟、iii は雲崗の石仏、iv はチベットのポタラ宮殿である。i はやや細かいが、問題文中の「これらを建立した王朝は、元の攻撃を受けて衰退し、13世紀末には滅亡した」から、パガン朝時代のものであると判断できる。設問3のiiiの雲崗の石窟寺院は460年頃から建立されたので、エが正答となる。設問4は「最初期の仏像」からガンダーラ美術を想起したい。設問7は資料 i ~ iv を南から順番に並べると、i → iv → iii → ii となる。問題文にある「20世紀に反乱が起きている」「この反乱を契機におきた二国境紛争を想起できれば正答を導き出せる。	標準
II	マーク式 記述式	世界史上の疫 病	設問2のイはトゥキディデスは前460年頃~前400年頃、ヘロドトスは前485年頃~前425年頃の人物なので、トゥキディデスはヘロドトス死後の人物ではなく誤文であるが判断が難しく、エが正文であると判断できなくてはいけない。設問3の哲学の学派はストア派であるが、ウはストア派の創始者であるゼノンがキプロス島の出身であることを判断するのは難しい。設問6の世界貿易機関(WTO)は、1947年に調印されたGATT(関税と貿易に関する一般協定)が発展解消を遂げて1995年に発足した。	やや難

III	マーク式 記述式	史料問題 桑原隲蔵 『考史遊記』	設問1は史料文中の「元の世祖フビライ、実にこの城において皇帝の宝位に即く」「爾来 <input type="text" value="A"/> 開平は大都燕京と併せて都会の所となり、当時称して両都という」から、元の副都であった上都と判断できるが、細かい内容。設問2の憲宗はモンケのことであるが、ア・イ・エが全てオゴタイ治世の事績なので消去法で対処可能。設問4のウとエは受験世界史の基礎知識で消去できるが、アとイの判別で戸惑った受験生も多かったのではないかと推察される。アの邯鄲は趙の都である。設問5の選択肢を時代順に並べるとエ→イ→ア→ウとなる。エのアダム=シャルルは明～清にかけての人物、ウは乾隆帝期のことなので判断しやすいが、アとイの順序の判断は難しい。設問6は「商業は概ね <input type="text" value="F"/> 人の手に在り」から、明代以降に活躍した山西商人と新安商人のうち、おもに華北で活躍したのが山西商人であることから解答の「山西」を導き出したい。設問8は「支那茶は南支より海運により <input type="text" value="H"/> に来り」から、北京条約での開港場のうち、北にある天津を想起したい。設問9は選択肢に書いてある出来事の時期を読み取り、そこから史料および表をみて矛盾していないかを判断する。カの時期は、史料中の「光緒三十四年の開設に係る。近年清国政府は」から清末の20世紀初頭であろうと判断する。	難
IV	マーク式 記述式	史料問題 『シンガポールの政治哲学—リー=クアンユー首相演説集』	史料から正答を判断できないため、設問が手がかりとなる。設問3は、問題文にある「空欄Cの人口が約200万人」とあることから、空欄Bから独立した空欄Cは比較的小国であると考えられる。また設問4を読むと、空欄Cの独立宣言の20年前に空欄Aが独立を宣言していること、設問5を読むと空欄Cの独立宣言の2年後に空欄A、空欄B、空欄Cを含む国々が地域協力のための国際機構を結成したことが分かる。以上のことから、空欄Cに当てはまるのは1965年にマレーシアからの分離独立を宣言したシンガポールでこれが設問3の正答、空欄Bはシンガポールの独立を認めたマレーシアでこれが設問2の正答、空欄Aは1945年にオランダからの独立を宣言したインドネシアとなる。そしてこれらの国々がシンガポール独立の2年後の1967年に結成した東南アジア諸国連合〔ASEAN〕が設問5の正答となる。また、設問4は1943年が太平洋戦争中であり、この戦争中に東南アジア全域に支配を伸ばしていた日本を想起したい。	難
V	マーク式 記述式	ヨーロッパにおける中国趣味の流行	今年度も文化構想学部で頻出である、作品を用いたヨーロッパ美術史が問われた。設問1のアの定窯は雲南ではなく河北省にある。イの赤絵がさかんにならなくなったのは明代以降のことである。エのコバルト顔料は東南アジアではなくおもに西アジアで採掘された。設問3は設問4の正答であるシノワズリとの関係性からロココと判断したい。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全体的には、早稲田大学の他学部と比べれば平易な設問が多いとされていたが、近年は難化の傾向が続いている。今年度は昨年度出題されなかった史料問題が2題出題されたことから、昨年度の難易度と比べて全体では難化した。本学部志望者にとって史料問題対策は必須である。文化史では写真を用いてやや難の事項を書かせることもあるので図版にも注意。単なる年号暗記ではなく、時代順に事項を並べ替える感覚や世紀を意識した学習を心掛けたい。